

対象サービス	項番	内容	回答
認証	1	GakuNinRDMを申請し利用できる状態にあっても、さらに学認対応IdPホスティングサービスを申請する？よくわかりませんでした。	GakuNin RDM をすでにご利用とのことですので、学認はご参加いただけているものと判断いたします。その上で、現在、学認対応 IdP システムの運用中であっても学認対応IdPホスティングサービス実証実験にご参加いただくことで、例えば、学認対応 IdP システムのクラウド化(SaaS化、IDaaS 化)への切り替えをスムーズに実施いただくことが可能です。そのため、現在学認に参加されている機関であっても参加可能としております。
認証	2	ldpホスティング実証実験に参加する2025年度は無償でサーバ構築が不要となるということであったが、2026年度以降はそのサーバ環境利用はできるのでしょうか。	現在のところ、2026年3月31日までの実施となっております。それ以降につきましては大変申し訳ありませんが、現在検討中となります。実証実験終了後は、各機関ごとに担当ベンダー様とIDaaSを契約していただくことで、同環境を利用することはできます。
認証	3	筑波大の方の質問で、学認の信頼性は、アカウントを持っている人は各機関から承認された人であって、そればまず信頼性の前提という話があったと思います。自分の所属機関は学認を導入しており、アカウントは人事情報や学務情報を利用して作られています。個人単位のIDも実現は何時になるのかは分からないが将来的に実現できるよう検討、というような話もあったと思いますが、「信頼性」というのが人物の身元確認みたいなことを意味するのであれば、個人の永続的IDはどうやって「信頼性」を確保するのかなと思いました。（機関に所属していない人物の場合）	現在 Persistent ID の検討を開始しており、こちらの IAL,AAL をどのように実現していくのかについて検討を開始しております。公開できる準備ができましたら、オープンフォーラム等で情報発信していく予定でおります。その際には、是非ご議論にご参加ください。
認証	4	学認対応IdPホスティングサービス実証実験終了後はどのような対応が必要か？実証実験後、学認対応IdPホスティングサービスが正式運用された場合の、費用感なども知りたいです。	実証実験が終了した後は各機関ごとに運用にかかる費用を負担していただくこととなります。そのまま継続してご利用いただければ、移行コストはかかりません。なお、費用感につきましては、「(図書館職員向け)即時OA(オープンアクセス)を支える認証について」(https://www.gakunin.jp/fed/732)にあります、「学認参加のための学内説明用資料 雛形(令和6年度版)」の p.11 「6. IdP構築及び保守にかかる費用(参考)」をご参照ください。本実験実証にご質問いただければ、より詳細なヒアリングをさせていただきます、機関ごとの費用を提示することができます。
認証	5	本学のシングルサインオンシステムでは、いったん認証すると、以後認証画面を見ずに複数のシステムを行き来できるが、学認はシステムが変わる都度に認証を求められるように思う。図書館OPACの認証を学認で行い、本学のシングルサインオンと同じような感覚で電子ジャーナル、データベースを使えるようにしたいが、無理だろうか。	学認におきましては、基本的に認証画面を挟まないシングルサインオンが実現できていると認識しております。ただシステムの実装にも依存することかと思しますので、どのあたりに不都合を感じておられるか、お手数をおかけいたしますが事務局までお寄せいただけましたら幸いです。 https://www.gakunin.jp/contact
認証	6	すでに自前のIdPサーバを持っている機関は、ホスティングサービスに申し込む必要がないという理解でよいか。あるいは、積極的に申し込むことで、自前サーバを脱却してホスティングで生きていく方向に舵を切るべきなのか。	現在学認にご参加いただいているとのことですが、例えば、自前のシステムからクラウド化による運用をご検討の場合、ご参加いただければ構築等にかかる費用を本実験実証にご参加いただくことで抑えることができます。比較検討のためにご参加いただくことも可能です。